

# 28PA-am141

薬剤管理指導業務の効率化 ～脳梗塞患者にテンプレートの使用を検討～

○佐藤 真帆<sup>1</sup>, 澤村 星吾<sup>1</sup>, 百武 宏志<sup>1</sup>, 渡邊 好造<sup>1</sup> (<sup>1</sup>災害医療センター薬)

【目的】当院は3次救急病院であり、脳梗塞等の急性期の患者が来院する。脳梗塞は罹患患者が多く、早期社会復帰のためエビデンスに基づき薬剤管理を行う必要がある。脳梗塞の治療にはハイリスク薬の使用が多く、薬剤管理内容が多岐に渡り、薬歴記載時間が長くなる現状がある。また、指導を行う薬剤師により指導内容・薬歴記載内容に差が生じるため、薬剤管理指導業務を標準化する目的で脳梗塞テンプレート（以下「テンプレート」という。）が必要であると考えた。そこで、脳卒中治療ガイドライン2015を元にテンプレートを作成した。テンプレートの使用で薬歴記載時間を短縮し、業務の効率化・均質化の可否について検討した。

【方法】テンプレート使用前（4～6月）と使用后（7～10月）の薬歴記載時間、指導件数等を比較した。なお、脳梗塞以外の疾患についても、テンプレートを一部使用し、薬歴記載時間や指導件数について比較を行った。

【結果】テンプレートを使用し、脳梗塞の薬歴記載時間は20.84%の短縮できた。脳梗塞ではテンプレート使用前後で18.33分/件から14.51分/件になった。脳梗塞以外の疾患についても薬歴記載時間は30.20%短縮できた。また、指導件数についても使用前後で47件/月から58件/月になり、11件/月指導件数が増加した。

【考察】テンプレートの使用により薬歴記載時間が短縮し、業務を効率化できた。そのため、テンプレートは効率化に有用であり、経験年数に関係なく均一な薬剤管理指導業務を行うツールになり、業務の均質化も実現できたと考える。業務の効率化により患者と向き合う時間が増え、プレアボイド件数もテンプレート使用前に比べ増加したため、薬物治療の質の面でも向上できたと考える。今後、より良い薬物治療の発展に貢献すべくさらに質の高い薬剤管理指導を行っていきたい。